

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明

〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第180号

[2022年8月31日発]

令和4年度春季公開講座

I. 春季公開講座 2022

発達障害医療研究所 所長 太田 晴久

昭和大学附属烏山病院では、大学の研究や診療の成果を地域の皆様に還元すると共に、地域での交流を図ることを目的に、公開講座を毎年開催しています。近年ではオンライン開催も試みられていましたが、今回は対面での開催となりました。幸い、現状の第7波における感染が広がる前の時期でもあり、感染に十分気をつけながらにはなりますが、当初の予定通り対面で開催することができました。対面には直接顔を見ながらお話ができるという、大きな利点があります。本講座にも多くの方にご参加いただき、質疑応答も非常に活発でした。講座が終了した後も、沢山の方にお声かけいただきました。これは対面ならではの思いです。暑い時期にわざわざ足を運んでいただいた皆様、対面での開催にご尽力いただいた職員の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。



2022年の春季公開講座では、「発達障害と仕事～受診から就労に至るまで～」をテーマにお話させていただきました。発達障害の特性を持つ当事者にとって、就労の問題は非常に関心が高いです。大人になってから受診される方の多くが、知的障害を伴いません。そのため、学業においては概ね問題がないことが一般的です。しかし、就職活動および就労を迎えた際には、その障害特性に伴う困難が表面化します。就労への支援は、大人の発達障害の支援の大きな部分を占めています。本講演においては、発達障害を持つ方が直面しやすい就労上の困難やその対応についてお話させていただきました。特性が基本的には持続する発達障害においては、自身の特性に合う環境を探したり調整したりすることが重要です。自身の得意や不得意といった特徴を把握することが、就労を安定的に継続していくためには大切です。また、精神障害者福祉手帳、自立支援制度、就労継続支援（A型、B型）、就労移行支援などの社会的支援制度や事業があります。必要に応じて、これらを上手く活用することも、就労を考える上では助けになります。

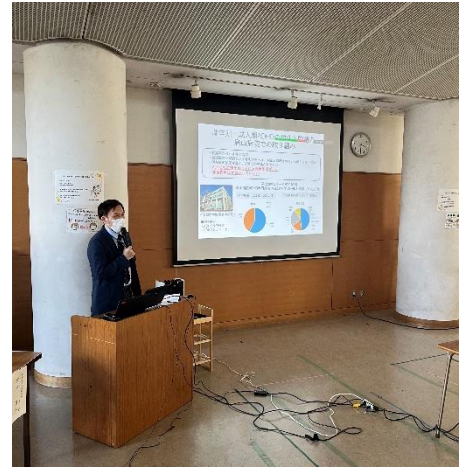
鳥山病院では発達障害に対するデイケアプログラムを実施しています。プログラムの参加は、発達障害および自身の特性についての理解を深める助けになります。本講座では、横井心理士や水野作業療法士からも、発達障害に対する新たなプログラムについてお話いただきました。我々の試みによって、就労につながるための選択肢が少しでも広がれば幸いです。

鳥山病院では発達障害に対するデイケアプログラムを実施しています。プログラムの参加は、発達障害および自身の特性についての理解を深める助けになります。本講座では、横井心理士や水野作業療法士からも、発達障害に対する新たなプログラムについてお話いただきました。我々の試みによって、就労につながるための選択肢が少しでも広がれば幸いです。

II. 『汎用性 ADHD プログラムの紹介』 ～サポートを全国へ広げていくために～ リハビリテーションセンター 作業療法士 水野 健

ADHD の治療では薬物療法に加えて、デイケアなどで行われている心理社会的治療が重要となってきます。烏山病院では、早くからデイケアで全 12 回の ADHD 専門プログラムを開発し実施してきました。プログラムに参加することで自己理解が深まり、対処法を獲得することにより ADHD 症状のうち、特に不注意行動の改善と不安が低下し、QOL が向上するといった効果があることが明らかになっております。しかし、全国的にみると発達障害の方を受け入れているデイケア自体は徐々に増えては来ているものの、専門的なプログラムを実施している施設はごく少数にとどまっています。そこで今回、全国どこの施設でも質が担保されたプログラムを受けられるようになることを目指した研究に取り組みました。烏山病院で実施しているプログラムを改定し、様々な施設で取り組み易い形を模索しました。これまでのプログラム参加者のご意見をふまえ、内容の改定と全 5 回への短縮化を試みました。実施するスタッフ向けにマニュアルや映像資料の作成にも力をいれました。新たに開発したプログラムは各施設でプログラムの位置づけや運用方法を工夫しやすく、各施設の背景やニーズに合わせて活用することができ広がりが期待できます。

今後も多くの方に役立つデイケアプログラムを考え、発信することが出来ればと考えております。ご参加頂きありがとうございました。



III. 『ピアサポートプログラムの紹介』 リハビリテーションセンター 臨床心理士/公認心理師 横井英樹



烏山病院では、ASD（自閉スペクトラム症）専門プログラムを開発し取り組んできました。参加者の多くが「自分と同じような人達がいることがわかってよかった」と言います。我々は、このプログラムが役立つ理由として、自分と似た特性を持つ仲間（ピア）との交流のなかで生まれる「ピアサポート効果」が大きいと考えています。全国にピアグループはありますが、コミュニケーションを不得手とする発達障害の方々が自主的に自助活動を継続することには大きな困難が伴うため、多くのグループが雲散霧消を繰り返しているのが現状です。

烏山病院では、専門プログラム修了者を対象にした OB 会を実施してきた経験を基に、今回全 5 回で構成された「ピアサポートプログラム」の開発を行いました。このプログラムでは、グループ内での役割(司会や書記)や、話を聞くこと、自己開示スキルについて取り扱います。参加した方には、コミュニケーション技能や QOL の向上だけでなく、院内での自助活動の継続、外部の自助活動への参加といった行動変化が認められました。今後、このプログラム修了者を中心に、各地でグループを運営していただき、安心して過ごせる場所を各地に増やすきっかけになればと思います。当日もたくさんの方からご質問を頂き、その関心の高さを実感することができました。ご参加いただきありがとうございました。

刑の一部執行猶予者に対する薬物依存症プログラム

精神医学講座 講師 常岡 俊昭

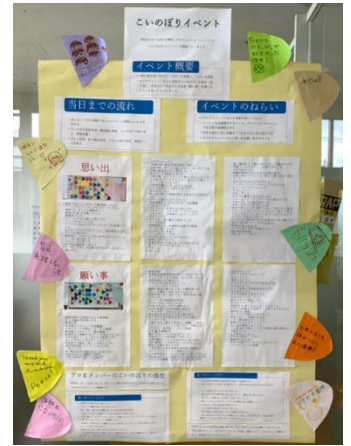
皆さんこんにちは！アディクション（依存症）外来担当の常岡です。

依存症は誰でもなりえる、すぐ僕達の近くにいる病気で治療のためには医療だけでなく社会的な対応が必要不可欠です。依存症者の中にはハマった薬物がたまたま違法であるために使用自体が犯罪になってしまう人も少なくありません。日本では平成25年の法改正（平成28年6月1日施行）で違法薬物使用者が使用を繰り返さないように実刑の最後の一部を猶予して、その代わりに依存症対策プログラムへの参加を義務付けると言う「刑の一部執行猶予」という制度が導入されました。元々僕はこのプログラムにスーパーバイザーとして参加させて頂いていたのですがしばらくコロナの影響で中止になっています。今回久しぶりに見学に参加させて頂いてきましたが、やはり病院とは違った良さがありました。依存症の治療は病院だけで終わりません。むしろ病院の外こそが治療の中心です。様々な機関と連携しながら必要な人が必要な場所で適切な援助が受けられるように今後も連携していきたいと思っています。以下は見学に行った看護師さんの感想です。

「初めてこのプログラムに参加するにあたり先ず思ったことは、保護観察中のプログラムという事で何処か厳しく、物々しい感じの雰囲気の中で行われると言う勝手なイメージと偏見に満ちたものでした。しかし、プログラムが始まりそのイメージは直ぐに違ったものと分かりました。ファシリテーターの方がとても和やかな雰囲気です、それでいてどこか包容力がある。そんな穏やかな時間の中で行われるプログラムでした。参加者の皆さんは過去に誤ちがあったかもしれないけど、我々と同じく社会の一員として立ち直る為に様々な課題を抱えながらも、想いを共有し、支え合える場所、そして支援者が見守り支援していく大切な場所であるのだと感じました。その中でも引きこもりで何も希望を見出せないと話されている方がいましたが、あのプログラムに参加し、そこでその想いを共有出来ていることも、大きな一歩であると思います。きっと孤独や孤立を感じ苦しむこともあるでしょうから、独りにしないと言う意味では大きな役割を果たしているプログラムであり、社会と繋がる居場所なのではないかと思いました。普段の生活では知り得ない貴重な体験をさせていただき有難うございました。」

デイケア活動 プロジェクトK R.Sさん

私はプロジェクトK（季節のイベントの企画を行うプログラム）に参加しています。5月にこいのぼりイベントを実施しました。後に、その内容をデイケアメンバーへどのように報告するかについての話し合いがありました。私はその回の司会を務めました。内容の報告に用いる紙の大きさとレイアウトと具体的な内容についてたくさんの意見が出ました。私は、その週で話し合いを終わらせようと焦っていました。そのため、数個の意見が出たところでそれらの意見で多数決を取り、多かったものにしようと思いました。そこでスタッフにもっとみんなの意見を聞くように言われることが度々ありました。私は、そんなにゆっくり進めていたらいつまでたっても終わらないではないかという口走ってしまいました。スタッフに、司会がそのようなことを言っているのはみんなが意見を出しづらくなると指摘されました。焦らずに物事を進めていくことの大切さに気付きました。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時
土曜日 8時30分～13時
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《7月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,868(8,421)	5,729(6,133)
◇一日平均患者数	286.1(280.7)	229.2(235.9)
◆診療実日数	31(30)	25(26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。
こちら当院のホームページのQRコードとなります。
ぜひご覧ください。



【編集後記】

気温も30℃を超える日が続いていますが、体調は崩していませんか。昨今の頃は、コロナ感染拡大の影響で史上初無観客のオリンピックがここ東京で行われていましたね。

先日までは感染者数も落ち着き今年こそは帰省や旅行をと思っていた方も多いのではないのでしょうか。しかし現在は第7波による感染者数が急増し、今年の夏もまたダメか、、、と落胆している方もいらっしゃるでしょう。体力だけでなく心も疲弊してしまいますがこんな時だからこそ美味しいものを食べて感染予防しながら体を動かしてストレスをため込まないようにしましょう。みんなで力を合わせてもうひと踏ん張りです！

(広報委員 亀井)